

平成29（2017）年度

## 第二回 吹田市立博物館協議会

### 議 事 録（要旨）

日 時 平成29（2017）年10月20日（金） 午前10時00分～午後0時10分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 一瀬・村田・橋爪・伊藤・佐久間・辻本・内山・岩崎・玉置・喜田委員

\*大元委員に代わり玉置委員

\*欠席 広瀬・大森・浦田委員

浦田委員委任状提出

#### 【1 開 会】 高橋主幹（出席状況の確認）

（高橋主幹）出席委員数は全委員13名の過半数を超えています。

第二回吹田市立博物館協議会は成立しております。

#### 【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

#### 【3 職員の異動】 高橋主幹

\*職員異動はありません。【博物館組織図・職員配置図（資料P2）参照】

#### 【4 議長・副議長】 議長 一瀬委員 副議長 村田委員

#### 【5 案件（1）事業報告（平成29年度前半～）】

（議 長）傍聴者はおられますか。

（高橋主幹）傍聴希望者はありません。

（議 長）案件が3件あります。

案件（1）事業報告（平成29年度後半～）について事務局より説明をお願いします。

（事務局）資料P3・4をご覧ください。P3は、平成4年度から平成29年度前半までの年度別観覧者数等の推移です。観覧者数について平成29年10月1日現在の説明をします。観覧者数5,256人、講座等受講者数7,233人、入館者総数12,489人。前年度同時期に比べると昨年が15,215人でしたので約80%の状況です。昨年の入館者総数が一番右の欄です。31,663人ですので、現状ですと3万人の達成は難しいです。P4は、今年度の月別観覧者数の集計です。右の4つの欄の観覧者数が、展示室に入り展示をご覧になった方です。講座を受講した方と合わせて入館者総数としてカウントしています。月別をみますと8月・9月が前年度を上回っている状況ですが、4月～7月で前年度をかなり下回る月があります。7月・8月は若干上向きになっていますので、このまま推移して

いけば、3万人に近づくとおもう。下の欄は、各特別展の会期中の入館者総数です。春季「田能村竹田展」です。観覧者数1,450人、講座等受講者数867人、合計2,317人。企画展は、「未曾有ノ猛台風、襲ヒタル～昭和9年室戸台風の記録～」です。観覧者数764人、講座等受講者数1,603人、合計2,367人。夏季展示は、観覧者数1,567人、講座等受講者数1,809人、合計3,376人。博物館実習展は、観覧者数466人、講座等受講者数753人、合計1,219人。特別展毎に前年度と比較すると春季特別展は、(前年度4,121人)減少。企画展は、(前年度1,948人)増加。夏季展は、(前年度5,773人)大幅に減少。実習展は、(前年度1,071人)増加。P19は、グラフにしたものです。展示別観覧者・講座等受講者・入館者数を示しています。展示別観覧者・講座別受講者の推移では、夏季展示の入館者数が大幅に減少しています。年齢別来館者数で赤い折れ線が企画展です。70代が突出して目立っています。地元の災害「室戸台風」をテーマに取り上げているので、関心を持たれたとおもう。緑は夏季展示です。30・40代が多いのは、子どもと来館された保護者世代です。この傾向は例年と同じです。男女別では、企画展は男性が多いです。他は、半々ぐらいです。P20は、市内・市外の入館者数です。夏季展示は、市内が突出して多いです。展示を「良かった」と評価した観覧者の割合は、全体的の9割です。リピーター率は、企画展が多いですが、企画展を何回来たかではなく、博物館に何回来ましたかという取り方です。P21来館のきっかけは、春季特別展は、市内は、市報が多いです。次いで知人・HPです。市外は、チラシ・HPです。市外のどの地域かは、大阪府下が多いです。遠方は、福島県・埼玉県・静岡県・鳥取県等です。企画展は、市報が多いです。チラシ効果があるとおもう。学びの情報は、吹田市に「まなびの支援課」があり、地域教育部関係の講演会・催しを冊子にまとめ配布しています。吹田市外は、大阪近郊が多く川西市・加古川市等、兵庫県からです。P22夏季展示は、市報が多いです。市外は、大阪府下が多いですが、夏休みの関係で他県も来ています。実習展は、市内は、圧倒的に市報が多いです。市外は、近隣市で知人・HPが多いです。

(事務局) P5からの事業報告を行います。

(議長) 前回と同様①展示趣旨はほぼ変わらないです。②展示目標の達成度と第三者評価を重点的に簡潔をお願いします。

(事務局) P5の「田能村竹田展」です。展示目標の達成度は、成果として《吹田村養病園》の所在を明らかにし初めて展示できました。また、竹田の大阪周辺の交友関係を紹介し、友人鉄心の展示もできたことが挙げられます。P6アンケート結果ですが、総じて、[とても良かった・良かった]の声が多いです。名前は知っていたが、初めて一堂に観られて良かったとの声がありました。P6企画展は、「未曾有ノ猛台風、襲ヒタル～昭和9年室戸台風の記録～」、同時開催「さわる月間」。企画展は、②展示目標の達成度は、これまで開催がなく、概要を紹介できたことが成果です。来館者の見方を制限しないで、様々な角度から展示に配慮し、様々な見方をして頂けたとおもう。今回は、人的被害を伴うので倫理面に慎重を期しました。研究成果を小学校の防災教育に活用頂ければと考えます。③アンケート結果は、知らないことが知れたとか、伯父が亡くなったが知ることができ、供養になった等の声が聞かれました。P8・9です。同時開催「さわる月間」の②開催目標の達成度は、前年度に比べ資料数を増やしました。学芸員全員で取り組んだので、各分野の資料を展示できました。今後、「さわる展」をどのように継続・改良していくのか考える機会になったとおもう。③アンケート結果は、吹田スマイル体操等、イベントへの参加が多かったです。瓦が良かったという個別の意見もありました。一方、2年前に見たので、新鮮みがないという声もありました。P10。小学生と乳幼児と保護者を対象に、夏季展

示「自然のふしぎを遊ぼう」を開催しました。目標の達成として、実物資料の充実ができました。昆虫の変身体験とか虫の見え方の展示等様々な体験を伴う展示の工夫ができました。アンケート結果から実行委員会の意図が伝わっていると思いました。変身体験とからみクモの巣展示等体験系に良い感想やその反対もありました。夏季展示は、ほぼ毎日イベントがありました。P13は、博物館実習展「大学生による館藏品展」です。例年同様、12大学、21名の実習生です。4班で学芸員が担当し展示実習を行いました。展示を作り上げる過程等、考え方を実践的に学ぶ機会を学生に提供しました。アンケートからは、実習展、実習生の姿勢への温かい評価がみられます。実習展の意義への理解が得られつつあると思います。気になる意見もありますが、学生が展示をしたことに評価を頂きました。P14の下段は、展示事業とは別の展示案内で10月14日すいた歴史グルッとめぐりは22人。P15の2〈教育普及事業〉歴史講座10月15日は15人。古文書を読む会10月14日は19人。出前講座で8月18日が抜けていました。内本町近現代講座で15人。10月18日は、12人。3〈連携事業〉(1)北大阪ミュージアム・ネットワークとの連携事業(2)歴史街道推進協議会との連携(3)学校教育との連携4〈研修事業等〉(1)博物館実習(2校と12校)(2)インターンシップ(1名)5〈特別利用〉6〈調査研究〉はご覧の通りです。以下紙面をご覧ください。P18は紙面をご覧ください。以上です。

(議長) 案件(1)事業報告(平成29年度前半～)について事務局より説明して頂きました。ご質問はありませんか。

(委員) 説明のグラフですが、折れ線グラフはそぐはないと思います。変化を見せているのではないと思います。入館者数は観覧者数と講座等受講者数の積み上げ棒グラフで良いです。年齢別来館者数は横長の構成比のグラフ、男女別来館者数は100%縦軸の割合で良いです。

後半の「住まい別来館者数」とか「来館のきっかけ」はアンケートを元に作成されていますが、どれ位の意見や数で読んだらいいのか判断がつかません。母数を載せてください。もう一つ気になったのは、夏季展示に関して、「実物資料が充実してきて良い展示になってきました。」という説明ですが、この活動でいうと実物資料が充実しても博物館に残らないところが非常に残念です。個々の活動が、子どもの体験として残ることは良いと思います。実習展にしても実習生の経験になるし、お披露目にもなることは良いのですが、夏季展示に関しては、博物館としての蓄積にどう繋がるのかお考を聞かせください。

(事務局) P10の半ばの「実物資料の充実を図った。」ことですが説明します。自然展は、当館は、歴史文化の地域の博物館として発足していますので自然を想定していませんでした。自然展の夏季展示は数年取り組んでいます。今年から昆虫・植物標本を作製していき、館藏品としてそれを蓄積できないかと考えています。

(議長) グラフの話が出たので、P3の表で毎回第2回の前半実績しか出てこないの、28年度の前半実績と並べて比較できる方が良いと思いますが。

(事務局) 口頭で説明しましたが、この表に書いておく方が良いということですか。

(議長) 29年度前半と年度のところに項目を入れるかです。説明は頂いたのですが少なくとも前年度は比べやすいと思います。アップ・ダウンが分かりやすい。

(委員) 「室戸台風」は、地域の歴史博物館としては、災害を展示で取り上げているんな体験を地域で共有化する非常に重要な展示で、勤務する歴史博物館でも少しずつ分類しながら、やっているところ。今後も災害を取り上げてはという感想を持ちました。倫理的配慮について具体的にはどういった難しさがありましたか。補足説明をお願いいたします。

(事務局) 博物館としての倫理規定があります。学校のスタンスと若干ずれるところがあります。亡く

なった方のお名前を出すことがどうなのか、すでに公表されたお名前ですが、被災者で亡くなっていない方についてどうなのか、今でもご存命の可能性がある場合、先生が特に気にされるのは、ご存命の可能性の被災者・被害者ではなく、亡くなっていない方のお名前をどうするのかで、新聞等で一度公表されたお名前であれば出しても良いということでしたが、こちらの論理との摺り合わせや相談したいことがありましたが、先生方が多忙で十分な時間が取れなかったという忙しさがありました。

(委員) 今年前半の入館者が全体より低いということを館として分析されているのか伺います。

(事務局) 入館者が減っている状況ですが、前年春の特別展との比較でも説明したように、特別展のテーマにも関係すると思います。前年度春の「千里山展」は好評で入館者も多かったです。「田能村竹田展」が内容的に好評ではないということではありません。入館者は、2千人ほど減少しています。当館の場合、イベントを展覧会会期中毎週のように行っています。イベントが定員制だと人数も限定されず。講演会も伸び悩みました。夏季展示は、大半がイベントで今年度は実行委員の負担も考え、イベント数を半分近く減らしました。前年度は、予定外の数百人規模のイベントがありましたが、今年度は、ありませんでした。総じてイベントでの減少がみられました。

(委員) 田能村竹田展は、よくやった展覧会だと思います。数字だけでものを判断する人たちもいるので、展覧会の内容としてすべき展覧会を実施したという理論武装を明確にして頂ければと思います。

(議長) 数字には分析が1、2行程度、達成度の中に入れた方が良いと思います。入館者のこの数字はどのような数字なのか意義を書けばいいです。見学会が10人ぐらいで推移していますが、人数制限がかかっているからですか？

(事務局) 見学会は定員割れもあります。募集の半分とか定員きっちりもあります。

(議長) 20人募集で20人応募されて、当日2割ぐらい減でこういう数字になるということですか。

(事務局) そうです。欠席される方もおられるので。

(議長) 他如何でしょうか。

(委員) 観覧者・参加者の数字のお話が出ていますが、全てが中身内容だと思います。当館の企画等を見ていると非常に充実したものであり、イベントの数が少ないとか多いとかの問題もさることながら、博物館としてはこれまで通りに企画を充実させて、如何にアピールしていくかで数字に繋がると思っています。数字等をあまり気にしないで、中身を如何に充実させるかということに力を注いでください。当協議会もそういう意味で協力しなければならないと思います。

(委員) 数字を気にせずにというご意見ですが、数字も一つの結果だと思います。3万人を超える入館者を集客したのは、館の皆様と市民参画が博物館の理念・目標に協調、協力した活動により、成果が上がってきたので、数字に表れていると私自身実感しています。この数字は大事したいと思っています。

(委員) 数字にあまり拘らずにという趣旨ですのでご理解を頂きたいと思います。数字も大事ですが、中身が充実すれば数字も伸びます。数字を否定はしていません。

(事務局) 展示は博物館の非常に大きな事業の一つです。その展示をする準備過程で発掘調査研究をしてそれが一つ成果として展示という形になります。その後、展示がどのように繋がっていくか、竹田展の成果がコミュニティセンターの目に留まり展示や講演の依頼がありました。千里山展や以外の展示も同じです。地域に貢献できる広がりをごだけ持たせることができるのか、展示だけではない成果が生まれていると思います。

(議長) 学芸員の時、本腰を入れて頑張った時、お金をかなり投入した時、かなり端折って展示した時がありました。結局入館者数はあまり誤差がないと感じました。頑張度がそのまま入館者の数字には

跳ね返ってこない感じもあります。意外と変わらない。あと計画の説明に行きたいのですが、ご意見がある委員の方は計画のところで、意見を反映させてご審議ください。次の（２）の事業計画（平成29年度後期～30年度前期事業について）について報告を受けたいと思います。

（事務局）P23から平成29年度後期～30年度前期事業計画について説明。

（事務局）P32。平成30年度～平成34年度での5年間の実施計画の要求について説明。

（議長）入館者として吹田市立博物館の利用者は、安定的に毎年保証されていると思います。来年以降も、同じ規模で来館される予測の元で計画を立案していると思います。そこを見通しながら、説明のあった事業計画にご意見をください。展示が目立つのですが、先程の円グラフを見通しながら、イベント、出前授業、情報発信等にご意見をください。

（委員）室戸台風は、体験された人が大方亡くなられたので、重要なことを調べて頂いて、この資料は大切に保管をしてください。吹田の大きな災害としては、戦災と室戸台風が挙げられると思います。伝え聞いていますが、私が生まれる4年前のことなので、知っていた人も亡くなり大変なことでした。山田でも相当被害に遭って、茅葺の家が随分倒壊したと聞いています。そういう資料もあれば保管して冊子にして頂ければと思います。収蔵庫ですが、籠等資料を提供しています。大切に頂くために、立派な収蔵庫が必要だと市に重ねて要望を出したいと思います。ニュータウンについて企画をされているので、私たちは開発に関して実体験をしています。まとめられるということで楽しみにしています。

（議長）一般収蔵庫計画とか博物館の今後に関わるご意見だと思います。

（副館長）収蔵庫について説明します。西村公朝作品を受入れるにあたりスペースがないということで、5年以上の懸案で協議会でもご審議頂きました。今年度予算がつき、現在実施設計が終えて業者選定に入っています。来月ぐらいには工事が始まり、今年度末までかかるようです。一般収蔵庫或は、特別収蔵庫に空きを作り、そこに西村公朝作品を収納したいと考えています。それと同時に、収蔵庫に入れることができなかった資料を解消したいと思います。今年度燻蒸等を完全に済ませ、館蔵品として受入れ、4月からの展覧会に臨みます。西村公朝作品を収蔵公開する唯一の博物館として、これから地域博物館と2本柱で運営していく考えもあります。最低年一回の公開の場を設定する考えです。本来なら常設展示室を活用して展示すればいいのですが、常設展示室が手狭で西村公朝作品のスペースがないので、特別展示室を使って年一回を目指します。それを解消するために要求しているのが特別展示室増設です。要求としては、来年設計、再来年工事ですが、収蔵庫とは予算的に桁が一つ違いますので、上手くいくか分かりません。まず要求して現在折衝中です。結果は、来年の第一回協議会の際にお話できると思います。

（議長）展示で獲得した資料は、今後の活用方法として衆知の方法は、どのようにお考えですか。

（事務局）「室戸台風」は、借用資料は、一旦返却をしています。学校には、学校の被害とそれ以降の様々な美談に関する資料が残っています。今後の扱いを相談しているところです。データ化は、取り組んでいます。データ化した資料は、倫理面に配慮して活用していくことに了解を得ています。「室戸台風」について展覧会后、講演の希望があります。「千里山展」についても、住民の方から講演やシンポジウムを依頼されたりしました。様々な形での活用も今後取り組みたいと思います。研究成果としての蓄積が博物館、学芸員にありますので有効活用していきます。

（委員）教育普及事業で事務局から説明があったように展示をきっかけに出前講座の依頼があり、大事な業務だと思います。データとして、数字がありません。何をやったという結果だけを記載していま

す。多忙な学芸員が講座や出前講座などに出て行くのは大変だと思いますが、市民にとっては身近に博物館が来てくれたことが重要で、何回ぐらい開催しているのか経年変化が判らないのでしょうか。増えているように思いますが。学芸員にとっては苦労でもあり楽しみでもあり、成果でもあると思います。単年度だけの回数だけではよく判りません。

(事務局) 回数と人数の記載が必要だということですか。

(委員) 回数が必要だと思います。

(副館長) 出前講座の回数は、年度によって起伏があります。今年は、かなり実施しています。今後のことは予測できませんが、いつも通り年間40～50回実施していると思います。出前講座が始まったのは、10年から15年前ぐらいに全庁的に出前講座を実施という方針が出て、急激に増えました。それまでは博物館独自で出前的事業を受入れて実施していました。全庁的な動きになってから急激に増えて今に至っています。

(議長) 20年ほど前に総合的な学習が入ってきた頃です。

(副館長) 市役所全体が市民から説明とか希望があった時は、積極的に出かけて説明対応する方針になった時点で、幾つかのプログラムを各課が用意することになり、当館もプログラムを作成しそれらが毎年冊子になります。市民の方がいろんなところで見ることができます。それ以外の内容で博物館に多数依頼があります。博物館に依頼したら受けてくれる認識が浸透していると思います。

(議長) 先程、数値の話が出ましたが、寄付金を頂いた時、頂いた関係者のお名前を表示します。同様に、受入れてもらった学校等の履歴を示すことで、博物館と連携しているとか協力して頂いた感謝を示す意味でも、履歴をきちんと示して出来るだけ、衆知することが博物館の社会活動の広がりになると話を聞いて思いました。衆知方法などありませんか。

(事務局) 協力して頂いた皆様を公表できないかということでしょうか。

(議長) 博物館がどういう団体や関係者と関わり合いを持っているか、広がりを出す方法です。

(委員) 発刊されている「博物館だより」の最後に、今月の来館学校や出前講座に行った場所等、具体的に書くことで市民の方に活動を知ってもらえます。

(議長) 出前で行ったタイトルを載せるとそのタイトルだったら「出前に来て頂きたい。」そういう要望も発掘できたりするかもしれません。

(副館長) 「博物館だより」と「ホームページ」しか思いつきません。一度検討いたします。

(委員) 事業報告にあった展示目標の達成度と記載がありますが、事業計画の展示目標の達成度について記載がありませんが、この目標をいつごろ誰が決めて、どのようになるのか展示目標の達成度を読ませて頂きましたが、分かりづらいです。どこを目標にしているのか。何が達成できて、何が達成できなかったのかが分かりづらいです。ご説明ください。

(事務局) 展示目標の達成度ですが、基本的にはこういう展示を行いたいという展示趣旨で具体的には、目標を入館者は何人、どういう内容の展示をしたいというのを公表はしていません。ここで書いてるので分かりにくいというご指摘は当然だと思います。各展示を担当する学芸員がこんなことを実施しましたという結果を受けて、ここはできなかった、ここはできたということを学芸会議等は話をしています。それを会議とか担当者個人の考えをここに書いています。具体的な目標があり、これは達成しました、これは達成できなかったという表記になっていないのは、ご指摘の通りだと思います。目標を明確にしてできなできを次回から表記します。

(議長) 計画は目標とゴールがあるので、計画は目標を明らかにして、報告は、どう着地したか説明

をしてください。

(事務局) 次回から事業計画に目標を掲げます。

(議長) その目標が結果的には実施の段階で変化したら、変化したと報告してください。

(委員) 今のことに関連しますが、学芸員は厳しい予算で頑張っています。厳しい予算で取り組んでいることをアピールした方が良いと思います。リソースインプットがなくて、ゴールだけ期待されても無駄です。きちんと明示した方が良いです。どれだけの投入量をして、こういう成果を得ていることがあった方が分かりやすいです。質問は、特別展示室の計画、収蔵庫の進捗状況、西村公朝展の来年度の説明提示を頂きました。この博物館の元々の特徴として、西村公朝の名が非常に重要な位置を占めていると理解しています。それを二本柱にしていきたい将来像を提示されました。これは重要なことです。重要なことですが、どこにも明文化して出てきていません。博物館の使命・ミッションが大きく変わる段階にあると思います。これまでを総括して、これから先をどう作っていくのか作るべきタイミングに来ていると思います。開館30周年記念誌はもう少し先になると思いますが、開館30年に向けての吹田市立博物館の計画を今出すと30年の契機にこれを実現して欲しいという要求調書にもなります。先の紫金山ビジターセンターも含めて地域博物館としてどう発展したいのか、西村公朝専門館としてどういった特殊性を出すのか。私たちも協力しますので、内外の知恵を集めて、明文化してみるのも重要な作業だと提案します。もう一つ質問は、吹田市立博物館だけに限らず関西の博物館共通の課題ですが、2019年に国際博物館会議 IN 京都大会が開催されます。世界の博物館が京都に来ることで近隣博物館として当館も協力を求められたり、そこで何かを実現したい考えもあると思います。この活動の中には、JICAへの協力、これまでも国際的なことも含めての貢献も書いて頂きました。これからの計画やこれまでやってきたこと等、この中で表現してください。

(副館長) 博物館の中長期計画を平成22年から第一次、今第二次中長期計画に入っています。まもなく第三次中長期計画です。平成30年度が終了だと思います。次の第三次中長期計画で、今話されたことは明文化し、場合によっては使命・ミッションに関わるようなところまで行けば、見直しも必要かと思っています。それについては協議会の場で内容をお諮りします。準備にかからないと行けない時期になっています。

(議長) (3)に移る前に(2)でご意見がありましたらお願いします。

(委員) 西村公朝展の企画書で気になる箇所が幾つかあります。西村先生は仏像の修理といよりも修復家です。日本美術院国宝修理所所長や東京芸術大学名誉教授もされました。修理という言葉は仏像にはそぐわないと思います。修復家で国宝・重文の修復をした日本最高の修復所の所長でしたので、それを反映させた方がこの趣旨文章では良いです。具体的に有名な奈良の仏像を修復等、格の高い人物だとアピールする方が良いです。西村作品は、一般の人に受ける作品です。吹田市内の駅や市役所等でサテライト展示をすれば人が観ます。吹田市にこのような仏像があるので観たいという可能性が出てきます。売り出したら良いと思います。万博50年は、大阪大学博物館もすでに吹田市と話をしています。当館と一度お話をしたいと思います。

(議長) 西村公朝さんを国家レベルでテーマを決めたら良いと思います。分かりやすい軸になります。

(委員) 目標と達成度の話が出ましたが、委員長が目標を立てそれで変化しても、と同時に当初目標を立てなかったことが展示の準備過程で、目標以上のものが達成できる場合があります。開催目標に達成度という書き方は、最初に立てた目標をどれだけ達成したかという形になります。少し緩やかな広い感じの目標を引用した言葉で表す方が良いです。全体的な評価がどうだったのか、この言葉は最初に掲

げた目標がどれだけできたかというイメージがします。30年度も「千里ニュータウン」の展示が計画されています。「田園都市」にも思いましたが、開発者側の視点に片寄り過ぎた感じでした。吹田のこの地に今までにないニュータウンが新しく開発されました。開発者の視点だけでなく、そこに入居する人の感じやその地域に新たに大規模開発されたことでその地域の秩序やコミュニティが変化します。地域がどういう影響を受けたとか、どのように地域社会が開発をどう捉えたかその辺の視点を入ると良いと思います。「千里ニュータウン」に入れてもらえればと思います。

(事務局) 「千里山」の時も考えましたが、資料もない、すでに分かっていることについてどこかで引用するとか、その程度の表現を盛り込むとか、キャプション、解説パネル、図録でしたらできたと思いますが、どうしても資料がないのがネックでした。「ニュータウン」もある程度言えます。人家がなく殆ど住人がいなかったこともあり、資料が全くない状態で難しいところです。

(委員) ニュータウンを作る時、人家がなかったかもしれませんが、自然はありました。有名なポンポコアニメもありますが、ニュータウン開発で失ったものは、自然環境です。その視点も入れることで30年を契機とした当館の視点の一つを衆知することになります。自然環境にも着目してください。

(事務局) 資料があればそれに越したことはありません。想像で物を語るのも博物館として適切ではないと思います。一主張等何か資料を見つければ、人文系・自然系についても盛り込みたいと思います。

(委員) ニュータウン開発で、住民からは何もなかったと言いますが、伝統的に伝わってきた田んぼ、畑、竹藪全部所有者がいました。先行取得、強制買収法で無理やりという部分もありました。全村全住民が一致賛同した事業ではなかったのです。様々な相当な経緯があり地域的には問題がありました。スムーズではありません。みんな協力的になる前には、不安があって大変な時代でした。

(事務局) 人の話や様々なところから聞いています。客観的な事実として確認できたことについてバランスを取って出します。当時の街びらきの式典に、大阪府知事が話している後で、反対運動の人々の声が聞こえる映像が残っています。物の資料に限らず、映像資料やそれ以外の資料も含めてあたってきます。万博も似たようなことを辿っていると思います。語弊があるかもしれませんが負の面も含めてバランスを取っていきたいと思います。

(委員) 評価の報告の言葉遣いで気になるのですが、展示事業・展示趣旨と開催趣の二つあって、展示は常設展も展示なので、企画展・特別展等、企画性の高い展示会は、展示会事業とか展示会趣旨と言わないと、展示事業の中でカタログを作ったことは、展示ではないので報告に入らない、成果に上がらないことになります。展示目標の達成度は展示だけを言っているのではなく、カタログ作成は評価にはなりません。様々なところで広報をしたとか様々な事業・講演会を開いたのは、展示会の趣旨、開催趣旨とかであれば、評価に書けますが、展示という言葉で縛っているのです、展示という小さい世界になっているのと思います。「さわる月間」は、開催趣旨と開催目標になっています。後は展示です。

(事務局) 当館は、展示会の意味で使っています。ご指摘のように狭く捉えられるので、展示会趣旨に替える方が良いと思います。「さわる月間」を開催趣旨としているのは、展示は展示ですが、常設化したさわるコーナーは、「さわる月間」を年に一回実施します。一年間を通じて、資料を充実させていきましょう。今年度は一年間かけてこういう資料が集まりました。展示できましたということを広報月間・衆知月間の意味合いで、開催しているのです、開催という言葉を使います。月間というイベントの例えば、交通月間のような交通を衆知するような広報活動、月間という意味合いはどちらかと言えば強いのです。「さわる展」自体は、年中常設化でありますので、今年度はここがこう充実しましたということをしてPRすることで開催を使っています。展示会というには少し違うと思います。



(議長) 具体的に、タイトル名をつけてもらう方が良いと思います。

(事務局) 「さわる月間」ではなくて、「何とか展」の方が良いということですか。

(委員) 資料のP27の〈資料収集〉をご覧ください。(1)資料購入で大坂画壇等重点収集資料ですが、大坂画壇には、力を入れて頂いて常に展覧会等も開催されています。非常に貴重な資料として、地元大阪として大坂画壇の資料は大いに購入してください。

(事務局) 予算的には少ないですが、逃さないようにしたいと思います。

(議長) 案件(3)課題討論で平成28年度事業点検・評価について事務局から説明してください。

(事務局) 個々の採点表は、前もってお配りしました資料の表P41からをご覧ください。頂いたご意見を反映させて文章にまとめています。文章で頂いたものはそのまま記載しています。1展示①常設展示と②企画展示に分けています。総合点は7.52ですが、常設展は、外国語への対応、子ども向けの解説等、リニューアルを積極的にということ。その時に西村公朝作品と展示等も含めて展示するように。企画展示は個々の企画展示(特別展等)に評価を頂いています。春季の「田園都市千里山」の展示は、近代都市から大阪万博に至るダイナミズムを考える上で、今後も展開していくテーマであります。レベルも高かった。さわる月間は、今後の継続を期待します。常設展を活用した展示を深めるイベントを考えて欲しいです。さわる展示の充実、質の確保が課題です。夏季展示は、自然の実行委員でよく実施しています。自然発見シートは、学校から取り組みやすいと高評価を得ています。継続してやってください。アンケートで引き出した子どもの興味を展示にどのように活かすのか検討課題です。秋季展示は、五反島を単独で扱ったので、速報展の感じでしたが、地域の遺跡、時代的、地理的な位置づけができていなかったという指摘でした。特別企画は、学校から見学に来ます。教員アンケートを採り展示内容改善に努めていることが良いということです。市民参画は、7.76点。アンケートの取り方・内容の再検討が必要でしょう。市民との連携は、ボランティアや実行委員、福祉団体や多様な市民参画の場を提供しているは評価できます。長い目で見た市民参加の視点(準備)も必要です。ボランティアは、コンスタントな活動が展開されていますが、層の厚さを進めることが必要です。研修も充実したものを実施して欲しいです。3地域学習の拠点と連携は、出前講座等よくやっています。回数も増加しています。講師派遣は今後も継続して取り組んで欲しいです。連携は、北大阪ミュージアム・ネットワーク、西国街道、特にネットワークの中核館として大きな役割を果たしています。情報発信は、6.85点。ホームページは充実してよくやっています。博物館だよりはイメージチェンジをしたらどうか。サイズ、デザイン、内容についても若い人が興味を持てるように検討してください。情報公開は、講演会、冊子等適切にやっています。どういう層を対象に情報発信しているのか再検討し、公開の仕方を考えてください。学校教育との連携7.10点。利用の促進は、教育センターとの連携を進めてください。バス研修も充実させて欲しいです。出前講座等も更に進めて、希望校が増えるように図って欲しいです。学校教育の支援は、小・中・高それぞれの連携を進めていることは高く評価できます。特に中学校は、学研の社会科への働きかけも有効ではないでしょうか。高博連携は、28年度は吹田高校DAYを行いました。効果検証の上、市内府立高校が5校あるので、連携も進めてください。6資料の保管と収集は、6.16点。

資料収集、管理は概ね良好の状態です。適切に実施していますが、データベース化のペースの遅れが目立ちます。資料のデータベース化を進めてください。7調査研究は、7.53。調査結果が館報・博物館だより・図録で適切に反映されていますが、地域資料の収集・整理も評価できます。近世・近代史料は、計画的に調査する点では不十分です。8施設の整備・維持管理は、5.33点。外国語の表記につ

いては、かなり遅れています。「さわる」も大切だが並行して早急に対応すべきことです。アクセスは、横断幕作成は地域との連携により作成したことは高く評価します。阪急バスとの交渉は、博物館口の表記への働きかけは必要です。社会貢献は、8.20点。実習・研修等で人材育成への社会貢献の意義は大きいです。その他に博物館として利用者自身が成長できる機会の場として提供できるか検討して欲しいです。場を提供する貢献も必要です。

(議長) 提案ですが、今年度はこれで認めて頂けますでしょうか。どこかでミッションとは中長期をどう考えていくか、本来のこれが材料になって点検簿、チェックシートにならないといけないと思います。10年分溜まって、10年分を見通した時に、吹田市立博物館こうあらねばならないことの根拠になるデータとして積み上がらないといけないと思います。それを点検しやすい表現方法に変えた方が良いでしょう。来年早期にこれを作り変えて、点検簿、チェックシートにできる書式の提案を来年一回目に行ってもらい二回目に報告書をまとめるのは如何でしょう。今のスタイルではこの年度はこうでした。こういう評価がありましたで終わり、年度切りで言い放しのような感じなのがこの書式の問題点だと思います。

(事務局) 来年度お話のような書式に変更するというので、文章表記ではなくて、チェック方式に変更ということで、文章表記は必要ではないということですか。

(議長) 箇条書きの方が点検しやすいというのもあります。大まかには、前文のまとめた文章が1ページぐらいあって、その後、ここの箇所が手ぬるいとかここは評価できるとかを集めると館としての方向性で手を加えて抜本的にやり直さないといけないところとか、館の特性を高めるためには、この点はひらって、この点を伸ばせば館の柱、ミッションになる等見通しを立てられる項目立てができると思います。

(事務局) 28年度を含めて、22年度分から評価して頂いているので、過去に遡ってでしょうか。

(議長) この後10年後に吹田市立博物館こうあらねばのような話をするのであれば、遡った方が良いでしょう。今後そのまま蓄積したら一目瞭然で、問題と課題が抽出できて、年度毎で推移しているかぐらい分かるようなフォーマットに。

(事務局) ご相談させて頂いてよろしいでしょうか。

(議長) 年度で言い放しで切れている感じがするので提案しました。見やすいアイデアがありましたらお願いします。事務局で案を出して頂きそれをたたき台にして相談します。

(事務局) 来年度春の第一回協議会で書式に替えることをお諮りします。29年度の点検、自己評価の書式とは別に(29年度の簡略して頂いたと思いますが)、自己評価をお示しすると思いますが、例年通りに簡潔な表記で行えばよろしいでしょうか。

(議長) 表も詳しく知りたいとか、展示も内容を調べれば良いだけの話なので、全体で200字以内のルールにして、見やすくした方が良いでしょう。

(事務局) 点検と自己評価シートと両方兼ね合いのあるようなチェックシートのようなものですね。

(議長) 要約したコンパクトなもの。10年経ったら10年分比べられるようなものです。あまり詳しくなると比べにくくなる場合があります。今の方向で良いアイデアがありましたら事務局にご連絡お願いいたします。案件(3)次こそ討論できるということでよろしく願いいたします。ありがとうございました。これで第二回吹田市立博物館協議会を終了させて頂きます。